夕刊 磐城新聞
九月七日發行
（日曜祭日翌日休刊）

童人獨語（下）

島田忠夫

例へば『おぼん』は短い中に機智に富んだ會話を交へ、好ましいものではあるが、まだ寓話の匂ひがつて漂ふてゐる。『惡魔の壺』『片目のソロモン』は文章、會話とともに童話としては、も一段くだけて欲しいと思ふ所である。『眼がさめたお地藏さま』は四篇中、一ばんの力作であり歎みを缺くけれども童話として立派である。さらにこれらの四篇の氣品のある點、流石と思はれる

今井邦子女史が、今後多くの童話を製作せらるゝやう願うてやまない。それは貧困なる童心文學のうへに實に望ましき所であると思はれる。また、童話のみならず、詩歌に傑れた女史が童謠の製作にも筆を染められるやう私は切望するのである

○法然上人

六月中、暫く常陸の湯へ行つてゐて、法然上人の傳記などをかす／＼讀み耽つた。親鸞上人の歎異鈔や研究書を讀んだ。そして『法然さま』といふ拙い童謠詩を三篇作ることが出來た

法然上人を題材にした童謠詩は、四五年前、士田耕平氏が作られて、『信濃毎日新聞』に發表されたことがある。それは室の遊女が小舟を寄せて、法然上人に救ひを求めるところであつた。私も今度、室の遊女を題材の一つに選んだ。法然上人のやうな吾が國の佛敎史上に傑出した高僧を童謠詩のやうな童心文學に取入れて活かすことは、實に容易なことではない。それ故成功することなどは覺束ないわけであるが、高僧、偉人が童心文學の取材に向かぬなどゝいふ事はあり得ないのであるから今後も私は種々試みたいと思つてゐる

法然上人の傳記や事蹟をまた御遺文を讀んで、私は非常に感激し、低頭して諧仰することが出來た。それ故『法然さま』といふ童謠詩は作れたと云つていゝ。本當に感激することなくして、詩は作れない。さういふ事も痛感した。若し、私に低頭するやうな、叶はぬといふやうな、諧仰するやうな感慨が起つたから、拙い作ら『法然さま』が作つたさういふことは、私事乍ら、氣張り有難い、恭いことゝ思ふてゐる

潮聲硯靜抄帳

○清淳會五句集　代表作

夏夜の夜やしら／＼と落ある竹落葉　山泉

梅雨出水見に出て鯉をつかみけり　麒堂

照りつくる山切り口の今年竹　洲明

夏の山町はともしてくつろげる　太道

人くれし夜釣のぐろの眼の涼し　洲明

もずが野の夏を深めてゐたりけり　九紫

夕の晴夏の出水は音のよき　山泉

葉が落ちて

秋志情

お背戸のこやぶの
夕まぐれ
マサ木のハッパが
落ちました
誰あれもゐない
淋しさに
裏の障子を
閉めました

近藤勇

珠雲　小野務平

維新大業兆光華
牛李紛紜天下譁
底事劍豪悠去就
不知汝國在王家

その日／＼

○

伊エ紛爭によつて聯盟理事會の存在が久しぶりに我々の腦裡に憶ひ出される――

共鳴

宇津木三四郎

四

忠長は自分の顏を無意識に花束の中にうずめ、そしてかぎりない愛憐の一片をゆすつた

×

日暮れ方、富美子はその花束をいだいてかへつた

丘から見る小さな村の家々には灯が入つて、草も空も冷々として心地よい

正子と俊子も富美子を送つて、その邊まで出かけて行つたのであらう

家の中には母と學校からかへつたばかりの父とが語り合つてゐる聲がきこえてくるばかりである

忠長は牛小屋を出て、溫室の方へ歩いて行つたがふと、さつき富美子の去つたあたりをふりかへつて深いため息をついた

陽が落ちると共にあたりはうつすらと暗につゝまれた

東のはてから次第に星の數はふえて來る

忠長の胸には人知れぬ淋しさの涙が湧いてきた

『長ちやん、御飯にしませう』

母の呼ぶ聲がきこえてくる、組んだ腕をといて彼は江戸端で足を洗つた

間もなく正子と俊子がもどつて來て、五人は夕げの膳にむかつた

やさしき母と慈愛にみちた父、その吻圍氣の中には知らず／＼の中になつかしい笑ひがかもし出されるのである

『長ちやん、今度の日曜には一つ梨がりでもやらうぢやないかね』

『すてき／＼ね俊ちやん』

『そうね』

『兄さん、どう？　あつ、そう／＼富美子さん兄さんによろしくつて言つてたは、私すつかり忘れてゐたは』

『富美子さんが、おいでだつたのかね』

『ゝ』

『兄さん、お花を澤山あげたものだから、とても喜んで』

『ホウ　それはよかつたね！』

『父さん、それぢや、今年はあまりいゝ出來ぢやないですが、もう食べ頃ですから、今度の日曜あたり御馳走しますかね』

『結構だね。昨日　一寸拜見したが大分良く出來とつたぢやないかね』

『いゝえ、そんなでもないですよ』

9月8日　△加賀の千代女逝く（安永四）△明治改元一代一元を制定（明治元）△平在軍で事變回顧座談會△赤井炭鑛出願の平町地下試掘許可△閼伽井嶽祭典（昭和九）

9月9日　△四道將軍を諸國に派遣（崇德帝一〇）△羽柴秀勝の戰死（文祿三）△鎌田流燈會（昭和八）△磐中志賀君近縣水泳に又新記錄△郡下小學敎員會總會（同九）

小說　誰が殺したか

(117)　今野賢三作　龍造寺勝齋畫

第二の殺人（八十七）

『さうでした、そのことですよ、僕はそのことが疑問で、それが何よりの解決の鍵と思つたものですから、につこりして死體の笑つてゐるのを、どういふわけで笑つてゐるのか、たしかめようとしたのでした、さうでした、課長！』

『ところで、あの微笑から君はどういふ風に考へるんだね？』

『私ですね、あの莞爾してゐるのは死ぬ前に或る喜びを感じて浮べた物で、それが死後まで消えなかつたものだと思ひます』

『すると、自殺したといふことにはならないね！』

『課長！さうです！さうです！そこですよ！自分の手で死なうとして莞爾笑つてゐられる譯はないのですからね、夫が又、あんなに無心な笑ひですからね』

『すると、本人の意識してゐない內に石のやうにされたといふことになるね！』

『課長！成程、さう考へて來ますと、その意識してゐない內に石のやうな死體にしてしまつた者が他にある譯ですね！』

『さう云ふ事になつてくるね』

『かうなつてくると、愈々咲山は奇怪な人物に思はれて來ます、どうもあの男がなんかの方法で令嬢を殺して、化石のやうにしてしまつたんぢやないですか？』

『うむ、そこだ、さういふ疑がもてるからこそ、水谷君！君にこの探偵を命令したのだよ』

『いや、有難うござゐます。すると、あの咲山は、なんらかの方法で人間を化石の樣な死體にしてしまふことをしつてゐるんですね』

『さういふ風に考へられるね』

『すると、又なせあの死體を持つてかくれたのか？またなせその方法を隱してゐたのでせう？』

『それは、下手人だつたらあくまでもかくすだらうがなせあの死體を持つて隱れたのかそれは確に疑問だね、併し水谷君、その疑問を解くにはなせ殺す必要があつたのか？といふ處から考へてこなければいけないね』

『さうですね、兎に角令嬢とは親しかつたばかりではなく、令嬢が咲山を戀してゐた形跡があるし、あの死體が發見される三四日前に咲山が訪問してゐるんだし……さてなせ、殺さなければならなかつたか？……さうですね、さうだ課長！それは令嬢に戀されて、あの通り妹と醜關係があつたらしいのですから、それで詰り富枝子といふ者が邪魔になつて殺害したんぢやないでせうかね』

『さうだね、その考へもあたつてゐる樣にも思ふがね……まだどうも疑問の餘地があるね、もしさうだとすれば、妹の方と手を切らうとする理由がないからね、しかも自分の殺した、そのいはゞ邪魔な死體を持出して、身をかくす必要はないからね』

『さうおつしやられるとそんな疑問もわいてきますね』

『處で隱家はどうだね！』

『それは荷物を運んだトラック等で調べたが、吉祥寺迄運んだことは判りましたが、それから何處へ持込んだか判りません』

『それぢや、武藏野の中には何處かに潛伏してゐるね！』

『たしかにさうです』

『ちやアひとつ君は、武藏野を隅から隅まで探して見るんだね、これは稀代な殺人鬼を發見することになるかも知れんぞ！水谷君、しつかりやり給へ！』

『さうです、稀代な殺人鬼！』

水谷も思はずそれに應じた

果して咲山醫學士は殺人鬼だらうか……？

待望の天下堂――
愈々近日開店
女店員數名至急募集
尋高卒以上ノモノ十八才ヨリ二十二、三才迄（住込通勤自由）
本人直筆ノ履歴書ヲ要ス
給料　十五圓（事務服支給）
申込締切　九月七日迄
申込所　平町三丁目　天地堂　電五八九
平町四丁目蓄音器專門店　天下堂

石炭　一〇〇％サーヴヰス
時節柄ダンゼン値下げ！
一等塊　正味五十斤入一俵　金貳拾八錢
特塊　同　同　金參拾五錢
品質が優良 目方が正確 デナケレバ 値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絶對に御信用願ひます。
◉市內ハ一俵ヨリ迅速ニ配達致シマス。
電話三七番
石炭 コークス炭 豆炭　阿部石炭商店

現代的―紫山流盤景教授
一、材料器具が安く何回でも使はれる。
一、練習二三回の初心者の作品でも直に床の間を飾るに充分である。
一、一週間一回六ヶ月で修業出來る。
一、繪畫の素養全く無き老若男女どなたにも習得出來る。
修得短期　經費低廉
紫山流盤景師範　平町白銀町　高橋光山　電話六三八番

內臓外科一般（入院隨意）
外科花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院　電話三〇九

丹野齒科醫院
丹野淳夫
平驛前　電話三八五番

夜間診療
胃腸・性病
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電話一〇七番）
（見習看護婦募集）

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備　自炊ノ便アリ
山内醫院　醫學士　山内亨吉

精神病科　腦脊髓病科　神經病科
郡山驛より約三十丁　安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生
郡山腦病院　電話九二五番
院長　醫學士　金森五郎
入院隨時

每度御引立を蒙り御厚情深謝致します、今回當店に於て貨物自動車部を新設し金成自動車部を專屬として三十五年式新車を以て貨物一般の運輸に從事致しましたから倍舊の御用命ご利用の程を偏へに御願申上ます
親切 迅速 安全 第一
鐵道、貨物一般
小口取扱　貨物自動車運輸
清宮運送店　電話二六七番
自動車の御用は電話二六七番へ願ひます
金成自動車部

磐城代表的の土産品
山。靈峰羊羹　里。柿羊羹
海。のり羊羹　各一本金十錢
右美麗三本箱入　特價三十錢
御旅のお出入に便宜な手頃のお土産品です
小賣御希望の方お申越下さい。
製造發賣元　小川郷驛前　平屋賣店

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
和洋銅物　金物問屋
（久）釜屋商店
磐城國平町五丁目　電話九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は（久）の生命なり

勉强ノ店（良クテ安イ）
建築美品　床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、山川印優品建具材
內外銘木　建築木材一式　便利瓦、木羽
（余）織田材木商店　平町紺屋町　電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉强ノ當店ニ◎

新秋爽凉の高月台上 聯合青年團の爭覇
愈々明八日 若人五百の跳躍

郡聯合青年團第十二回体育大會は愈々明八日の日曜休日をトし午前九時半から磐中グラウンドに開かれる、既報二十團約五百の若人が漸く恢復した天候に惠まれ爽凉の高月台上新優勝旗を繞つて爭覇戰を展開するものと期待されてゐる、なほ昨年の優勝は競技は內郷村の三年連勝、武道は平であり今回は何れの頭上に榮冠輝くであらうか

。。。。磐女排球部遠征。。。。 磐女校排球部では來る十五日水戶に遠征、縣立高女、市立高女、大成高女、女子師範の各校チームと對戰する

堅陣日立軍を迎へて 地方庭球の豪華接戰
白熱的の猛練習に 必勝を意氣込む入山

地方庭球界の王者たる入山軍は來る十五日の日曜をトし午前十時から同鑛コートにこれ亦關東實業チームの覇權を握る日立鑛山組を迎へ對戰する事になつた 堅陣を誇る日立鑛山チームは元東京金門クラブの選手として縱橫の活躍を見せた石橋並に札幌鐵道當時からその妙手を發揮した福島の兩氏が大將組たるに對して入山軍の大將組は長谷川、岩倉兩氏に決定、日立の堅陣を破らんものと連日練習に餘念がないので興味ある試合を期待されてゐる

從業員慰安軟式野球戰 同鑛從業員慰安スポンヂ野球大會は二十二日午前八時から入山小學校並に同鑛グランドに開く 參加八チーム

齊藤晃

町役場吏員へ選擧注意 平町では縣議戰の切迫により今七日青沼町長の名で吏員一同に對し選擧事務の處理上秘密を守り嚴正公平肅正運動の趣旨に鑑み投票には細心の注意を拂ふやう訓示した

繭價再た下向く
昨日四倉市場の最高 四十五圓二十錢

一躍四十六圓臺に飛躍した四倉繭市場は昨六日に至つて幾分下り氣味の高四五、二〇錢 安三八、〇〇錢 駟四三、四〇錢 掛目三六 出廻二八四貫 秋繭出廻りも愈々終季になつて出荷も減少し、來る二十日頃から弗々出廻る晩秋繭を前に一時閉場する事になるだらうと云はれてゐる 尙同場の閉場季は來月十五六日頃である

養正會遊說
けふ玉川村で

立候補のトップを切つた立憲養正會推薦候補者齊藤晃氏は湯本町天王崎に事務所（事務長玉川村大字金成橋本佐外壽氏）を置き愈々今七日午後六時から出身地玉川村小學校に舌戰の火ぶたを切り漸次湯本、平に乘り出す準備を進めて居ると、尙遊說部隊陣容左の如し

遊說隊長高橋秀雄 中村支部理事長伊藤英太郎 日立支部東鄕一 候補者

「誇る石城梨」甘美を
廿六、七日の品評會で 二百五十點を卽賣

石城郡農會主催梨品評會は昨六日開かれた果樹組合長會議で協議の結果來る二十六、七の兩日平署會議室に開く事になつた 今年から小箱（二貫除入り）を加へて出荷見込數二百五十點、兩日に亘り卽賣を行ふが出廻時季なので贈答用としては最もよく、關係者審査の下に鶴、龜、松、竹、梅と優秀品を選拔二十七日午後これが賞狀授與式を擧行する

。。。。柴戶技師視察。。。。 農林省柴戶技師は八日來郡小川江筋鮫川堰を視察九日原の町方面に向ふ

地方の大小天狗が 第一回の將棋合戰
十四日五丁目吉田屋で

石城將棋聯盟主催第一回秋季將棋大會は既報の如く來る十五日の日曜日をトし行ふ筈だつたが、平町青年團分團對抗野球、サイクルレース、飯野八幡社祭典等大衆的催物が多い所から盛會を圖つて前十四日に繰上げ午前十時から平町五丁目吉田屋樓上に開催することになつた、會費食事付五十錢同好の來會を歡迎すると

國語研究會
郡下關係敎員參集

郡下小學校敎員の國語敎育研究會第四回例會は來る十五日午前九時から平第二校作法室で開き夏季休業中各地に行はれた各種講習會の出席報告、郡小學兒童文集第三號並に研究誌『歪』第三輯及び本年度計劃に關し協議する

萩原高速編物講習
九日より第二校で

各炭鑛に於て好評を博せる共同發明家鷲尾師の編物講習は平婦人會主催、女子青年團後援の下に明後九日より三日間第二小學校內に於て開講することとなつたが該器械は構造簡單なるが故に破損することなく一枚の銷びない金で作られた甲板でメリヤス、ガーター兼用でメリヤスなどは手編に十倍の能率を有し又手編同樣の各種模樣細糸太糸も自由に隨所に取付けられ編直し糸など湯のしせずとも綺麗に新糸同樣に編める實に家庭の必用品で價格は百十圓が三圓八十錢、會費無料、會員以下は金五十錢であると、尙は當日は開講に先立ち三十分間構造說明實演及見本の一覽をなす筈

郷土の未發史跡を探る
鮎泳ぐ鮫川河畔にて（歸省餘錄）

勿來生

上古既に中央政府が開發した古文に顯著なる菊多莊と、其の命に赴任して之に在廳し、地方民政に努力して、得たる菊多莊（十訓抄古事談、佐竹系圖、御宇多院御領目錄、小山文書、結城文書等參見）、の靑田沃原は、今や科學工業の侵蝕に荒替し、乃ち萬頃の稻田樹園は、突如として人絹工場なる敷地に大半埋立られ加之ず、周邊の田稻をして其の毒瓦斯てふの爲に可惜幾枯せんとし、尙は之に慊らずしてか、臨海菊多濶の魚介をも將さに絶滅せんとするに非ざるかを把憂し、則ち陸奥入口の菊多莊は、其の人絹工場たるものに因つて、果して之が時代的郷土の幸福ヶ創くられゐや、否其の爲に將來の悲運を來すやを憂慮し、乃ち予をして郷土を把持する爲め苦悶を懷だかせ、低徊顧望久しうし、泫然として丘麓の親戚木內鐵次郎氏宅に著いたのは一時近くである

一時二十分、木內宅の直南なる窪田城址に登り其の背西の一大塹濠を越えて國魂神社の脇道に出た、此の路は酒井と江栗間を連絡する古道である。由來、窪田城の創築は不詳であるが、鎌倉時代、佐竹氏の支流窪田二郎秀繁が居り（小川氏系圖）、明應前後には窪田山城守昌清占據し（潮崎文書）、慶長中に及び岩城貞隆の傳梶原美濃守政景が住んだ（松山寺文書、植田龍昌寺記、手綱記、延壽讃法錄）。

但し里人の話では、予が今通つて來た其の窪田城阯を、專ら右の國魂社東の舊城を云ふ。是れは該古社並に直北の國造廳址と相俟つて、如何にもさう肯かれるが、大字窪田の地圖で見ると、尙は當地內には古館、外城、內城（今云ふ窪田城址は此に在る）、道山（湯殿山神祠の附近に城壘の跡を認むべし）、高舘腰、郡大槻等皆昔日の城館、要所の遺稱であるから、古文書上の窪田城とは必ずしも國魂直東の城址とは斷言されない。けれども恐らく窪田の本郷は、右の國魂古神を中心として發達したであらうから、其の眞蹟は、姑らく傳說の通りと見て差間へがなからう

油火事に懲りて ガソリン取扱訓示
けふ平署で營業者を招致

平署では今回の一丁目關彰油店火災に鑑み今七日午前十時から管內ガソリン業者二十餘名を招き柴田署長から種々これが取扱ひに關し訓授した

。。。。拐帶徒弟搜索。。。。 平町番匠町一九大工職坪井政留方弟子田村郡都路村大字岩井カッ長男吉川慶次郎（一七）は去る五日夕刻主家の金十二圓を拐帶行方を晦ましたので今七日抱主から平署に搜索願

凶作娘の血を吸ふ
綴の潛り桂庵檢擧

內郷村大字綴字町の內六三宍戶英喜（四八）は無免許で赤井村重職長女松村みさを（一八）を昨年九月宮松市砂山町飲食店ひさご事豐田ひさ方に前借九十七圓で住込ませ更に此程茨城縣多賀郡杉原町周旋業和田谷彌吉方へみさをを連れ五日午前一時百七十圓で賣り飛ばすべく頓靜岡驛を通過の際同縣の移動警察に發見され取調べの結果前記の外凶作娘の弱味につけ込み湯本町大字八仙坑夫廣一次女江川はる（二一）を始め七十餘名の娘を各地の酌婦、女工に賣飛ばしボロイ儲けを占めてゐた事自白引續き取調中

。。。。柿代を騙る。。。。 湯本町八仙二七長山金次郎は昨年十月朝鮮産柿を買取るべく朝鮮慶喜郡高陽郡山宗面長伍里七六金天用（四〇）に代金三百圓を送つたが約一年になるも未だ現品を送つて來ぬので六日平署に詐欺罪で告訴

叔父宅へ發砲 罰金廿圓

夏井村 既報ー荒田目字石崎六農矢吹嘉右エ門（三九）が四月十三日午後十時頃隣家の叔父矢吹喜藤治（五四）方に到り土足で侵入亡實母キクの遺產返却を迫つて拒まれての歸途携帶の獵銃を同家土間に發砲威脅した威脅罪は此程平區より略式罰金二十圓に處された

投書歡迎 投槍

。。。。櫻樹を保護せよ。。。。

◇櫻の土堤と謳はるゝ花の新川は今や平町の一名所として遠近に著聞し、例年町の三春を彩つて居るばかりで無く、四季折々の遊步道として貴重な存在である

◇新川の改修に伴ふ櫻の衰滅を防ぐ爲一部有志から成る團体がその維持保有に關して世人に呼びかけ幸に今日あるのであるが今尙ほ之と相反する行動に出でつつあるものあるを悲しむ

◇自分は最近朝の散步に於て一本の老木が無殘にも枯死して居るのを發見した、それには稻架にでも使ふらしい多數の丸太が寄せ掛けてあつた

◇之れなどは町の名勝保有上最も心なしの遣り方で即時に撤退すべきものである、恐らく他にも之種の不心得者があるかも知れぬが新川沿岸の水田所長全般の注意を望む

◇時漸く收穫に近い折柄之を天然の稻架けと心得丸太を橫棒を縛りつけ等の無い樣各自の反省を促すと共に町なり青年團なりの手で嚴重な取締りを願ひ度い

（二丁目浩歎生）

喜劇 感違ひ强盜
急訴におつ取り刀の警官 常習の夫婦喧嘩に呆然

初秋の宵、ナンセンス一題ーゆふべ八時頃平署に息せき切つてかけつけた六十老爺が『二百圓の大金を强奪されたから……』と屆けたので署員がスワ一大事とばかり現場たる驛前藤田屋旅館に急行、實狀を調べた處、何のこつた！夫婦喧嘩と判明、右は平町大町居住元某炭鑛役員松村某（六〇）で今春から迎へた娘ほども年の違ふ內妻キチ（三五）假名ーと最近種々の關係から兎角風波が絶わず昨夜も一と悶着の末離緣する事になつたが女が出ないので『それでは俺の方から出る』と此の老爺へソ繰金二百圓を懷に家を飛び出し、前記旅館で愛さ晴しの一杯中夫婦關係は差當り解消したとは謂へ今迄のよしみから心配になつたキチさんが來てなだめても利かぬので亭主から虎の子を取つて歸宅したので此の場の仕儀に及んだもので松村が相手との關係を知るに及んで署員も呆れ返つてゐた

給仕一名募集

一、小學卒業程度身体强健にして自轉車に乘得る十七才迄の者

將來工場員に採用す。希望者履歷書送付あれ 面會日通知す。

免許證盜用の 惡運轉手に二年
けふ平區で求刑通り判決

昨報ー免許證を竊取して自身運轉手になり澄し雇はれ先の自動車を拐帶逃走した住居不定無職前科二犯安達郡高川村生れ清野吉之助（三五）に係る竊盜、公印僞造、並に自動車取締令違反事件は今七日午前十時から平區で小林判事係り清田檢事關與公判開廷求刑通り懲役二年を言渡された

磐城名物 靈峰羊羹 小川郷驛前 平屋賣店

八日（白露）（小名濱測候所調査）
日出 五、一三 月出後 二、三六
日沒 五、五六 月沒 ー
滿潮 後一一、〇五 干潮 前六、一〇

九日
日出 五、一四 月出後 三、二二
日沒 五、五四 月沒前 〇、三一
滿潮 前ー 後三、一五 干潮 前七、一五 後七、五〇

舊八月十一日 日曜 丁亥 赤口 滿 昴宿 新九月八日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 他より斡旋の勞を受け身の出世を呈する日▲二黑 平坦の地を往くが如く付等障がいなく事成る▲三碧 すゐ運にさうぐうして物事意に叶はざる日病注意▲四綠 他の後添へを蒙して迷惑の起らんとする日▲五黃 石橋をたゝきて渡る程の用心あれ暴暴敗あり▲六白 穩健なる行動に依り目的を遂げ利益大なり▲七赤 八方に手を擴げても一方も成らざるすゐ運日▲八白 日頃の希望も成り新規計畫も亦良化する日▲九紫 愼重に進んでさへ過ちあらんとす注意肝要

舊八月十二日 月曜 戊子 先勝 平 畢宿 新九月九日

▲一白 力を貸さずして功績大なる日氣安く願達す▲二黑 活動自在に行けば計畫するゝと運ぶべし▲三碧 悲運甚しく萬事遂げ難く進むに凶病注意▲四綠 退引ならぬ破目に陷り易し親しき仲も戒▲五黃 敬けば信用を增し援助引立ありて向上▲六白 たふれて後止むべきのみ正ぎの爲には立て▲七赤 逆逝も元の平靜に戻らんとする日愼重たれ▲八白 水魚の交を結んで力頼みとする人を得ん▲九紫 行末を顧慮して輕卒の行動に出づべからず

廣告 大和田醫院

江戶前 海老天麩羅 天ぷら雁 天丼 親子丼 平新田町 酒壽家 電話一七一番

店舖改築落成に就て
今般店舖改築の爲御得意樣に對し御不自由相掛け候段何共恐縮の次第謹んで御詫び申上候
此程工事落成仕り殊に秋冬物豐富に新荷着努めて御便利相圖り可申候間何卒倍舊の御用命被御付度奉懇願候 敬具
三井呉服店 電話 三八 二八四番

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社 福島縣平町 電話（營業部一〇番 本店二七番）
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

吉田眼科病院 平町紺屋町 電話六八番 醫學士 吉田久雄

產科 婦人科 花柳病科
午前 宅診 午後 往診 入院應需
井坂醫院 平町田町（元合津醫院跡） 電話五五九番